

2026年度 地域の元気応援プロジェクト 提案活動テーマ一覧

5月12日（火）17:00～ @ミライクリエ1F 多目的スペース

番号	テーマ	提案団体	自治体
1	三原市船木地区における歴史資源を活用したデジタルものづくりによる地域活性化	船木の歴史ロマンを語る会	三原市本郷町
2	10月にハロウィン行事『吉舎まち歩きトリック・オア・トリート』	吉舎自治振興会	三次市吉舎町
3	ユニバーサル農業×生物多様性×スマート栽培による地域共生型未来農業モデルの実証	里山ユニバーサル農業研究会 Sera Universal Agri Lab	世羅郡世羅町
4	広島県産の杉や檜材を使用して、子どもや女性、高齢者などでも組み立てられるタイニーハウス（小さな小屋）を開発。森林資源の循環・地域活性化・子供をはじめ世代を超えた関係人口の形成を図る。	広島タイニーハウスプロジェクト	三原市久井町
5	「未利用資源の柿を使用した、シングルオリジン柿酢プロジェクト」～発酵の力で、農業・地域・学生の未来をつなぐ～	柿酢プロジェクトチーム (株式会社 尾道柿園)	尾道市御調町
6	伝統芸能に恵まれた安芸高田におけるオペラの普及と舞台芸術の力による地域の元気づくり --古くからの文化・施設を活用した地域イノベーションに挑戦!! ----	一般社団法人地域QOL研究所	安芸高田市甲田町
7	乳幼児（新生児～6歳まで）と妊婦と発達障害児のいる家族を守るための「配慮型避難所運営」と「地域リーダー育成」	こども子育て防災アドバイザー研究会	広島市（中区）
8	広島をひとつの自然史博物館にー自然と暮らしを記録するワーキングネットの実践ー	特定非営利活動法人西中国山地自然史研究会	北広島町
9	東広島市の新たな特産品!! 「焼き米」販売で地域の農業と子供達の未来をつなぐ!	一般社団法人ひろしま農育プロジェクト	東広島市（西条）
10	東広島における戦争・原爆に係る資料のデジタル化ならびに閲覧システム構築 ～次世代が主体となってそれらを発展継続できる教育エコシステムの構築～	次世代による東広島の 戦争原爆体験継承ネット	東広島市（西条）
11	未利用資源を農業資材に利活用し、コスト低減による生産者所得の最大化	わらしべ農家プロジェクト	東広島市（八本松）
12	「空き家問題×DAO（分散型自律組織）」による中山間地域の自律型コミュニティ構築と、地域通貨的価値循環モデルの実装研究	一般社団法人広島空き家流通促進 ネットワーク	東広島市（西条）
13	東広島まちなか共育プロジェクト	一般社団法人ひとむすび	東広島市（西条）

三原市船木地区における歴史資源を活用した デジタルものづくりによる地域活性化

応募

船木の歴史ロマンを語る会

船木の歴史資料

【課題】

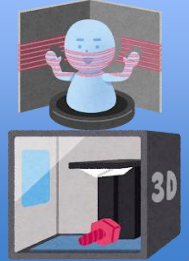
認知度が低い
活用不足
若者に伝わらない



デジタルものづくり

【注目】

認知度が高い
様々な分野で活用
若者と協働できる

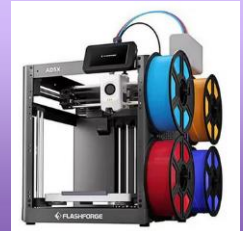


【想定される取り組み】

- ・3Dスキャナ → 出土品をデータ化
- ・3Dプリンタ → 触れる展示
- ・3Dマップ → 史跡の可視化



脚付鳥形瓶



地域活性化

- ・郷土学習の充実
- ・観光の魅力向上
- ・持続的な地域活性化



触れる出土品



古墳位置の
3Dマップ

『吉舎まち歩きトリック・オア・トリート』 で、もっと町の人と盛りあがりたい！

毎年10月のハロウィン行事に、吉舎自治振興会が主催で行っています。

子どもたちが仮装をして、吉舎町の商店街通りをねり歩いて、お菓子の
おねだりをして回ります。最後に集めたお菓子を子どもたちが山分けして
帰るという内容です。せっかく子どもたちが仮装して、団体で歩いているの
で、その姿を一人でも多くの町の人たちに見ていただきたいなと思ってい
ますが、PRがうまくいきません。

この行事をきっかけに、もっと、子どもたちとお年寄りの交流の場が増える
といいなと願っています。主催となっている自治振興会のメンバーの助け
をしてもらえるとモチベーションにつながります。

連絡先：

吉舎自治振興会 会長 山西友規
広島県三次市吉舎町吉舎548-6
yamanishiyukii@gmail.com

吉舎町には6地区の自治振興会があり、その一つの
自治組織です。住民が主体となって「住みよい地域社会
の維持・発展」と「自主的なまちづくり」を目的とする
組織です。役員は8人で、部員は常会長が年毎に交代で
担っています。主な活動内容は、子どもからお年寄りのた
めの行事や環境整備などです



栽培システムネットワーク(里山のデジベジ原風景)

データ転送型農業 (Digital Transport Agriculture)

農薬を使用しない安全な農作物を育て、
クリーンな排水で生態系を取り戻す農業へ

- 先人のスキルを、
データで後継者へ伝承
- バリアフリーな環境で、
農業の未来を変える

マザー ファーム

トライアル
キット

卓上型栽培システム

圃場再現

栽培システム

地域生産者
既存圃場

土壌データ

サポート
開発元

アルゴリズムを
活用した
栽培システム

栽培データ取得

栽培データ取得

栽培データ

栽培データ

生物多様性

クリーン
排水

トライアル
キット

新規営農者

卓上型栽培システム

栽培システム

クリーン
排水

生物多様性

デジタル トランスポート ファーム

遠隔地 研究・教育現場

スマート農業体験
農業担い手育成

プランター栽培

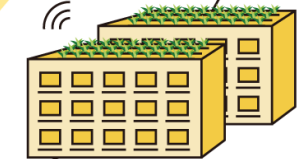
トライアル
キット

卓上型栽培システム

都市型農業

室内農業
(バックヤード)

- ・大学構内
- ・商業施設
- ・病院
- ・福祉施設
- ・団地
- ・公園

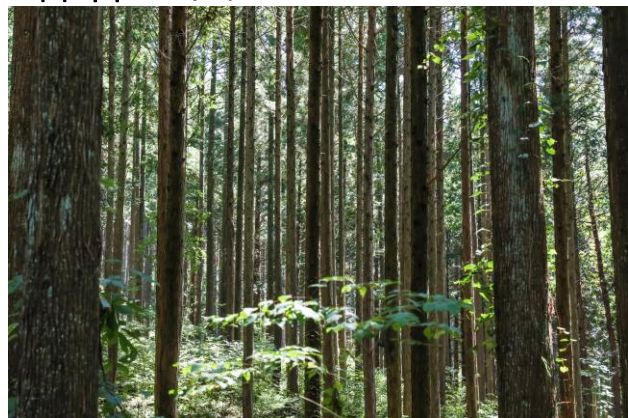


未来型農業

フィジカルAI



森林・山



製材



木工（家具）



県内の間伐材を利用



家具設計・製造に基づく容易な組立の仕組み



軽量で小さなパーツで構成



こどもや女性、高齢者でも組立可能



タイニーハウス
(小さな小屋)
の開発



誰でも作れるタイニーハウスを介して、多くの人たちに空間・ものづくりの体験を提供して、地域の関係人口を増やす。



広島大学 地域の元気応援プロジェクト

未利用資源の柿を使用した シングルオリジン柿酢プロジェクト

～発酵の力で、農業・地域・学生の未来をつなぐ～ A long-term aged persimmon vinegar project using single-origin persimmons from unused resources.

応募

地域の背景と課題

- 規格外・未利用柿の増加
夏季の高温期間の延長により、大量の完熟果の発生で年間5～10トン廃棄
- 農家の高齢化・担い手不足
尾道市御調(みつぎ)町の農業従事者は約70%が65歳以上
- 地域経済の停滞
「柿の里」として、干柿に続く新たな柿商品の開発と「地域の誇り」の再構築

プロジェクトの流れ



※開始1年目は、プロトタイプ収穫・製造・販売の6次産業化を体現していく



例: 大学生の参画 ～学部を学びを地域で実践！～ →地域の課題を“ジブンゴト”に捉える場に

農学部

発酵研究・原料分析

- 発酵条件の検証
- 成分・機能性分析
- 品質評価

生物生産学部

栽培・収穫・原料調達

- 規格外柿の実態調査
- 収穫支援・農家連携
- 持続可能な栽培提案

経済学部

市場調査・ビジネス設計

- 市場・消費者調査
- 価格戦略・事業計画
- 6次産業化の検証

任意団体「柿の木会」や道の駅、地元小中高生、地域住民との協力関係強化

期待される効果

※商品イメージ

1. フードロス削減

未利用の柿を有効活用し、里山保全・産地荒廃・鳥獣害被害・食ロスの解決

2. 農業所得の向上

柿製品の付加価値化により農家収益向上と地域雇用の拡大

3. 地域の活性化

新たな柿の特産品で観光や産直、地域経済の発展、関係・交流人口の増加！

4. 学生の成長

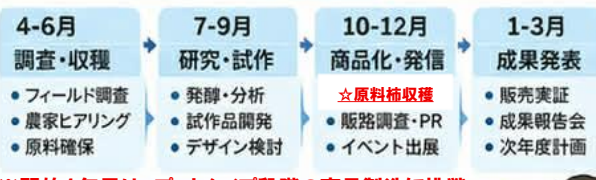
中山間地域での実社会の学びを通じ企画力・実行力を磨き、主体性を養う

産学連携体制

大学・企業・地域がそれぞれの強みを活かして連携します。⇒関係性構築能力と課題解決能力の醸成



スケジュール(1年間)



成果指標(目標)

- 未利用柿の活用量: 1トン/年
- 新商品: 2～3品
- 学生参加: 延べ20名以上
- 連携農家: 5戸以上
- イベント出展: 3回以上

※開始1年目は、プロトタイプ段階の商品製造に挑戦

「柿の魅力」を通じて、地域課題の解決から世界の課題を救う、未来を描いてみる！



伝統芸能に恵まれた安芸高田における
 オペラの普及と舞台芸術の力による地域の元気づくり
 --古くからの文化・施設を活用した地域イノベーションに挑戦!! --



課題:良いものはあるが生かせきれていない

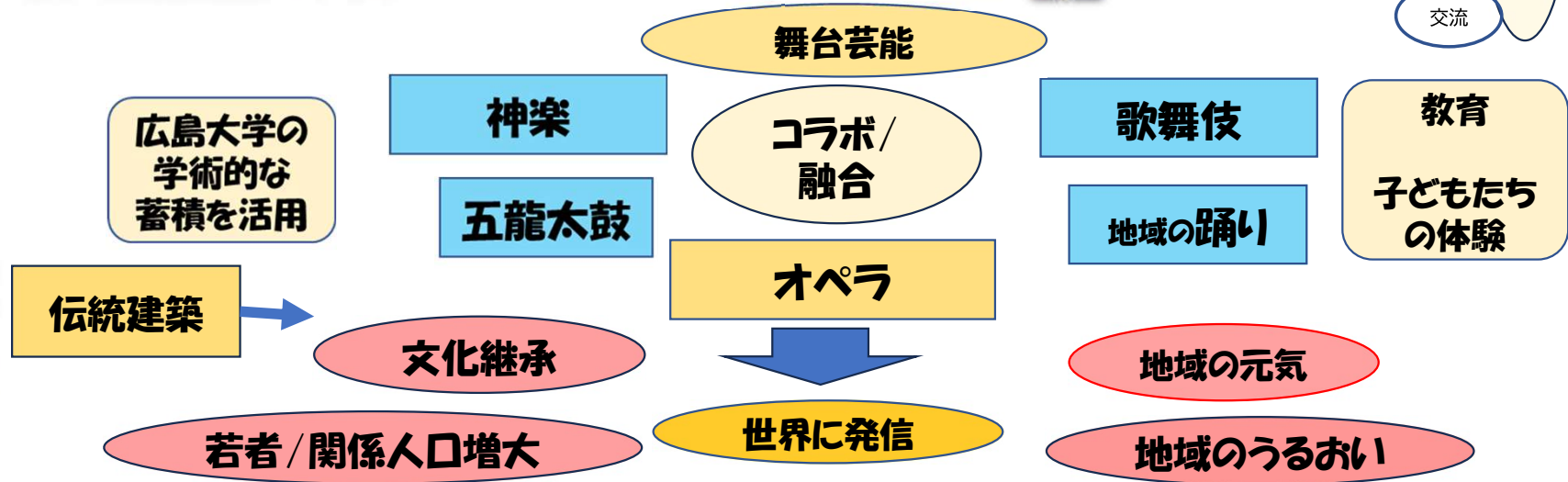


高林坊
 原爆投下前に広島大学医学部が
 疎開したお寺
 2024.10 記念碑贈呈
 (5学長立ち合い)



人形師辻村寿三郎

交流



有形文化財奥田邸

乳幼児（新生児～6歳まで）と妊婦と発達障害児のいる家族を守るための
配慮型避難所運営と地域リーダー育成（概要）（11月末ごろ開催予定）

ねらい

1. 配慮型避難所を地域で運営できるようになる
2. 配慮型避難所運営を行い運営リーダーが育つ
3. 学生の地域活動への参加機会となる
4. 子育て家庭など若い世帯が地域とつながる



こどもの居場所と専門家の関わり



必要なスペース（例）

取り組みの流れ

- ①こども子育て防災アドバイザーが企画立案
- ②大学（専門性）・企業との連携
- ③子育て家庭への参加促進
- ④配慮型避難所の運営
- ⑤共有と改善
- ⑥地域の取り組みへ展開

成果

1. 子育て家庭向け配慮型避難所の運営が地域でできるようになる
2. 大学の先生方の知見を配慮型避難所運営にいかせる
3. 学生との連携が地域に生まれる
4. 配慮型避難所運営のPDCAサイクルが生まれる
5. 学生や地域防災リーダーが妊婦、乳児のいる家庭とつながり、地域の防災力が高まる

概要

目的：本企画は、広島県内に点在する自然史活動をつなぎ、広島大学と地域の自然史拠点が協働する、実践型ネットワーク（ワーキングネット）を形成することを目的とする。

現状：広島県には県立の自然史博物館が存在せず、標本・資料・知識・人材が地域ごとに分散している。そのため、自然史の記録や継承の基盤が弱く、活動同士の連携も十分ではない。そこで、県内の自然史施設、研究者、市民団体、フィールドワーカーなどが連携し、広島大学総合博物館をはじめとする学術機関と協働しながら、広島県全体を「ひとつの博物館のように機能させる」ネットワークの形成を目指す。

方法：本事業では、単なる情報交換にとどまらない実践型ネットワーク（ワーキングネット）を構築し、以下の取り組みを進める。

① 広島自然史マップの作成

広島県内の自然史活動拠点、研究者、フィールド、活動テーマなどを整理し、自然史資源の把握と可視化を行う。学生も調査や情報整理に参加し、地域の自然史活動への理解を深める。

② モバイルミュージアム（出前博物館）の実施

ネットワーク参加団体が標本や教材、地域資料などを持ち寄り、合同展示や出前博物館を実施する。都市部や大学などで広島を自然史を紹介し、市民や学生の関心を高める。

③ 自然史資料の共有とデジタル化の検討

地域に散在する自然史資料や刊行物を整理し、保存や共有のあり方について検討する。

④ 自然史ワーキングネットの運営

自然史に関わる施設、研究者、市民団体、学生などが参加する対話と協働の場を設け、広島を自然史活動をつなぐしくみを検討・実践する。

●**備考（ワーキングネットの定義）**：本企画におけるワーキングネットとは、情報交換を中心とする一般的なネットワークとは異なり、一定の期間と目標を設定し、具体的な活動を連続して進める実践型の連携を指す。単なる交流や情報共有にとどまらず、共通のテーマのもとで役割を分担し、一定期間の活動を共同で実施することで成果を生み出す。本企画では、自然史マップの作成、出前博物館の実施、資料の共有やデジタル化の検討などを、年度単位のプロジェクトとして進める。これにより、広島県全体がひとつの自然史博物館のように機能する基盤づくりを目指す。

●**連携先**：広島大学総合博物館（東広島市）三段峡ビジターセンター（安芸太田町）さとうみ科学館（江田島市）芸北 高原の自然館（北広島町）など、広島県内で自然史活動を行う拠点や団体。

提案プレゼンターマ

東広島市の新たな特産品!! 「焼き米販売で地域の農業と子供達の未来をつなぐ！」

- 目的：①新たな農産物特産品として、焼き米を製造～加工～販売を行ない、地域農業を活性化させる。
②焼き米の売上の一部を生活困窮の子育て家庭に無償で食材を届ける子ども宅食事業の活動費に充てる。

※上記の目的のため、広島大学の学生（当時）が製造～開発～実販売を実現させた。

- 実績：東広島市のふるさと納税返礼品に採用。

広島県産応援登録制度に採用。

- 特徴：モチモチ食感と香ばしい香りが特徴。

鍋で10分煮て食べられる時短料理が可能。
食物繊維が通常の白米の約6倍含有。

保存食、健康食として高評価をいただいている。



東広島における戦争・原爆に係る資料の デジタル化ならびに閲覧システム構築

～次世代が、主体的にそれらを発展、管理できる教育エコシステム構築～

既存のデータ、データ閲覧システムの抜本的改変

高校生等に、上記作業の解説しながら、共に構築する経験をさせる
年間を通して複数回のワークショップ開催

次世代がそれらを発展、管理できる教育エコシステム構築
それらをきっかけに、次世代による平和の担い手育成

2026年度地域の元気応援プロジェクト

応募

わらしべ農家プロジェクト

(Hiroshima FOOD BATON採択進行協創PJ)

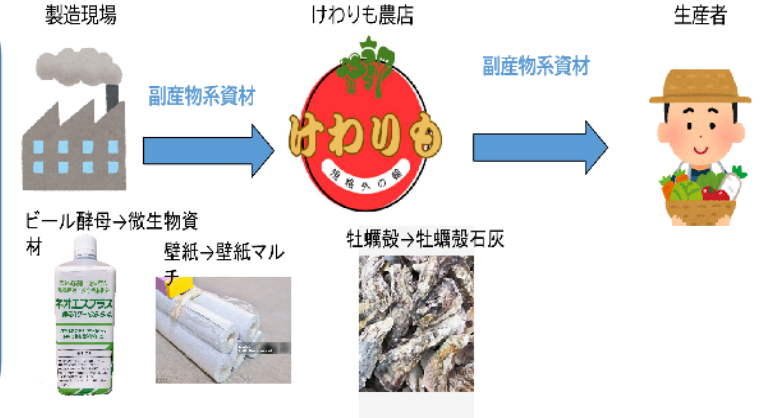
【1年目】

～2026年度地域の元気応援プロジェクト～

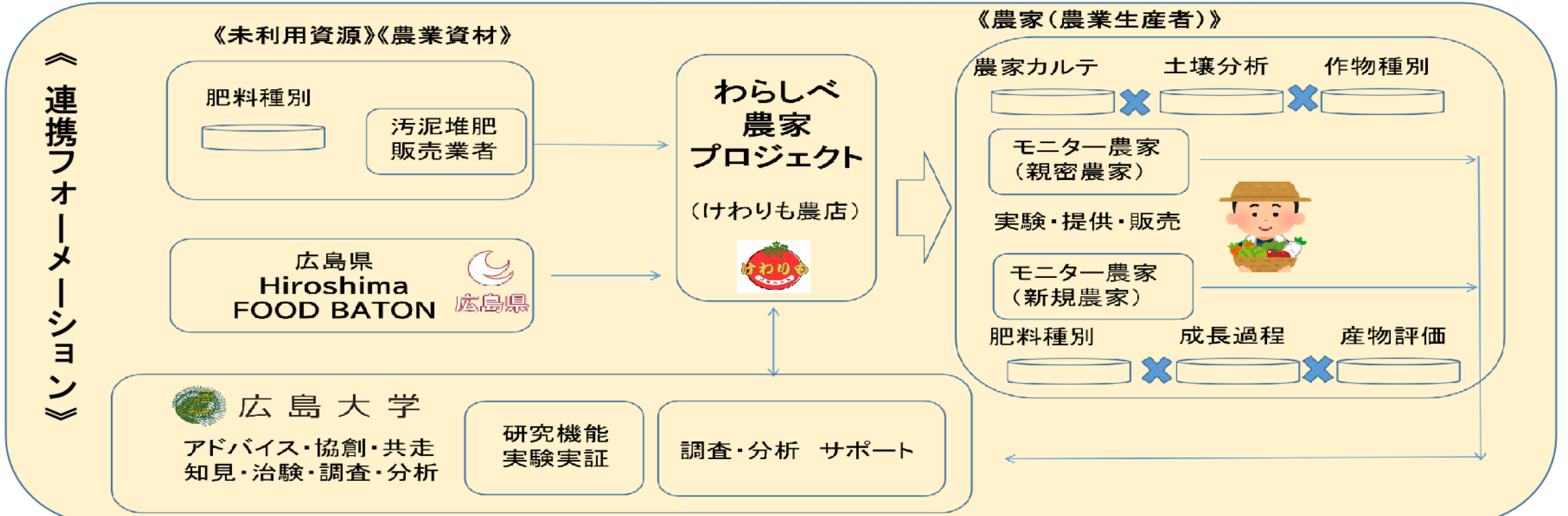
◇元気にしたい地域： 広島中央地域連携中枢都市圏とその周辺地域

◇元気にしたい人： その地域の野菜・果物・園芸などの農家（農業生産者）

◇元気にする方法： 未利用資源を農業資材（肥料等）に転換活用する事を推進支援することで、石油問題や物価高騰の波を少しでもやわらげ、コスト削減や収益向上に寄与し、農業生産者（兼業農家含む）を元気にする。農家が元気になれば消費者も元気になる



【元気の源】：副産物・未利用資源を農業資材に利活用することでコスト低減

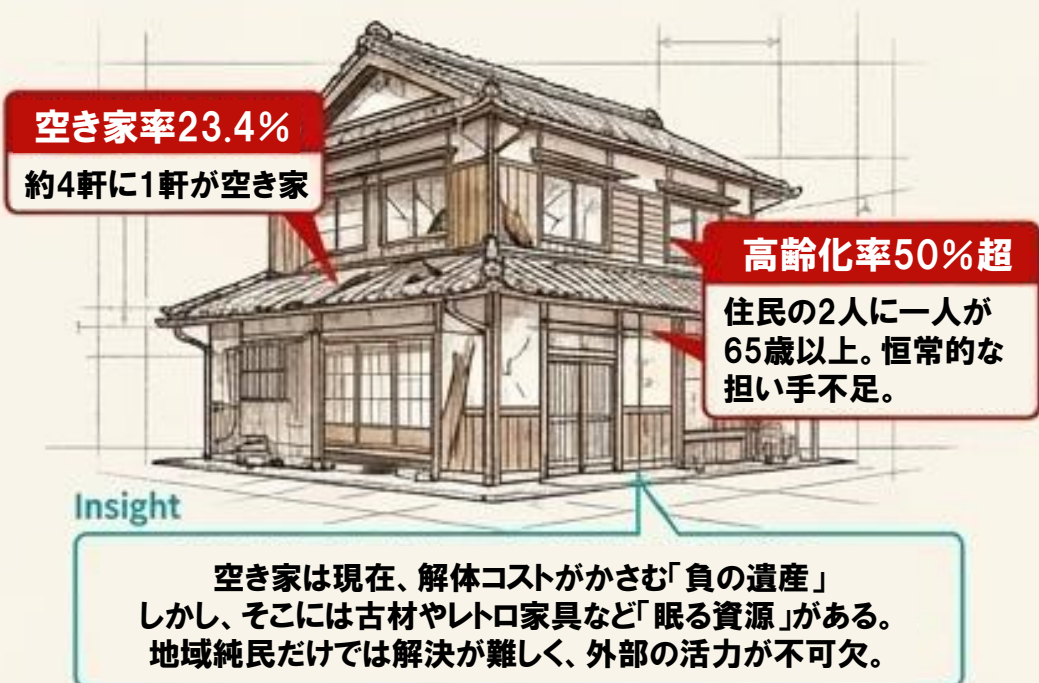


「空き家問題×DAO(分散型自律組織)」による中山間地域の自律型コミュニティ構築と、地域通貨的価値循環モデルの実装研究

提案者：一般社団法人広島空き家流通促進ネットワーク

応募

【背景・課題】豊栄町の現状

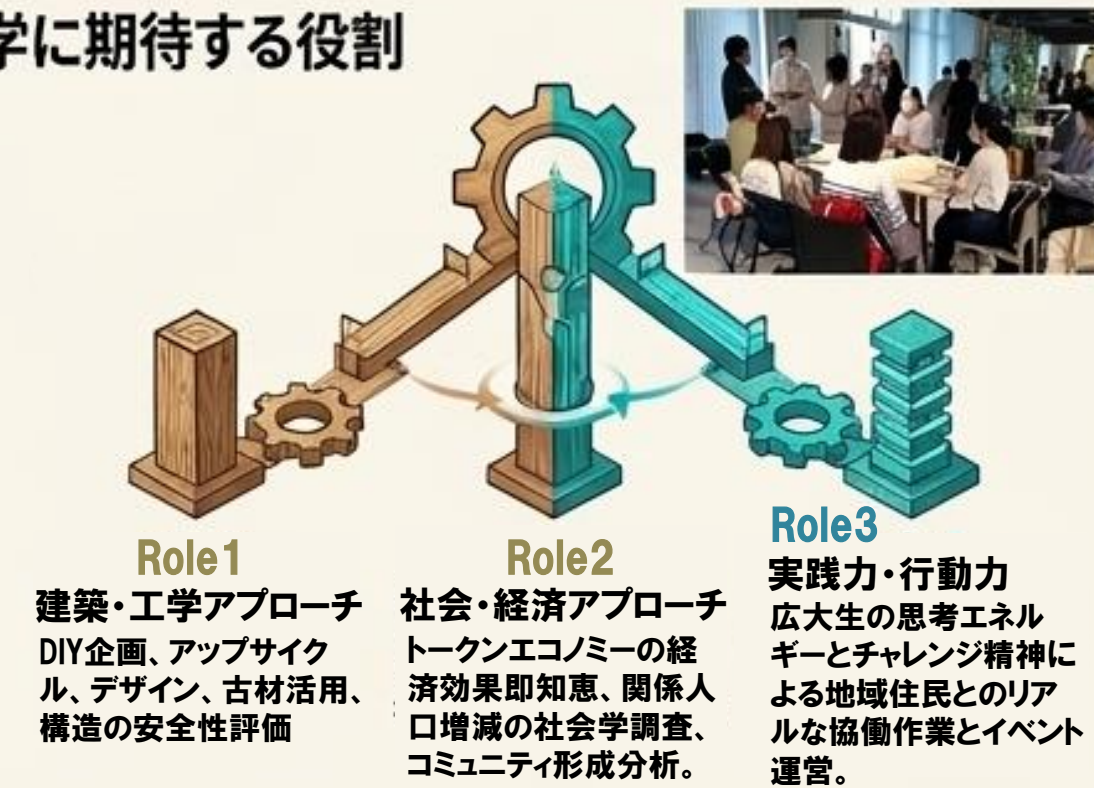


空き家率23.4%
約4軒に1軒が空き家

高齢化率50%超
住民の2人に一人が65歳以上。恒常的な担い手不足。

Insight
空き家は現在、解体コストがかさむ「負の遺産」しかし、そこには古材やレトロ家具など「眠る資源」がある。地域純民だけでは解決が難しく、外部の活力が不可欠。

【連携の提案】広島大学に期待する役割



Role1
建築・工学アプローチ
DIY企画、アップサイクル、デザイン、古材活用、構造の安全性評価

Role2
社会・経済アプローチ
トークンエコノミーの経済効果即知恵、関係人口増減の社会学調査、コミュニティ形成分析。

Role3
実践力・行動力
広大生の思考エネルギーとチャレンジ精神による地域住民とのリアルな協働作業とイベント運営。



【解決策】空き家を『ハブ』へ再定義

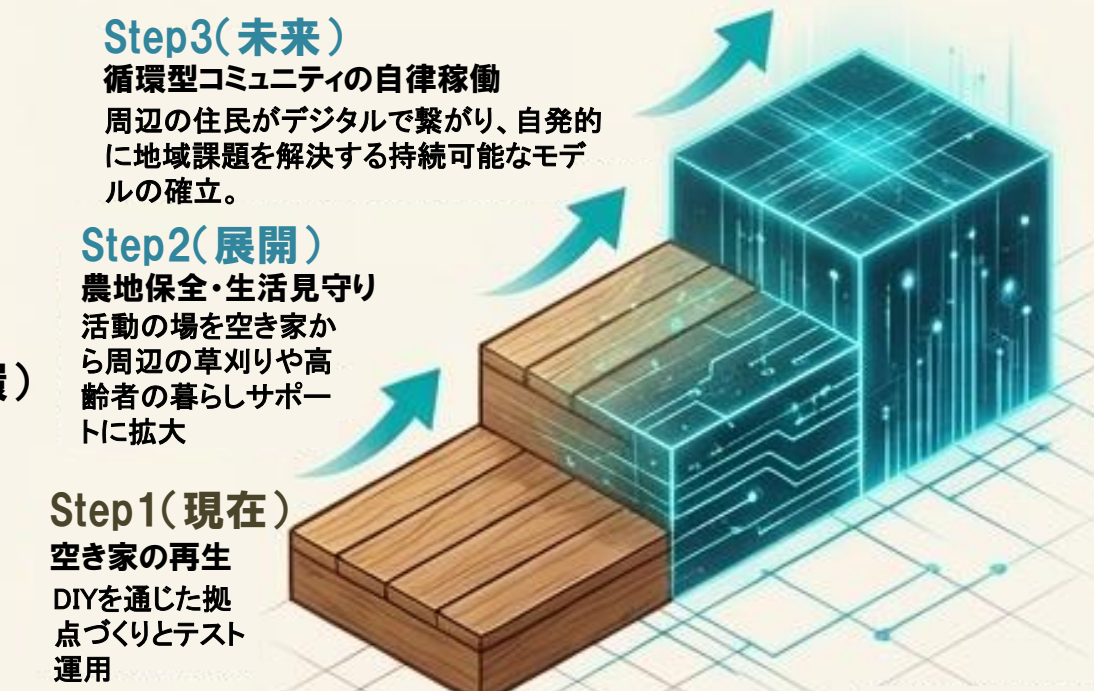


<地域資源活用例>
・休耕地利用PJ/農業
・空き家活用PJ/宿泊施設、お試し住宅など

チケット一覧
32枚

DAOアプリ 試験稼働中

【将来ビジョン】プロジェクトの波及効果



Step1(現在)
空き家の再生
DIYを通じた拠点づくりとテスト運用

Step2(展開)
農地保全・生活見守り
活動の場を空き家から周辺の草刈りや高齢者の暮らしサポートに拡大

Step3(未来)
循環型コミュニティの自律稼働
周辺の住民がデジタルで繋がり、自発的に地域課題を解決する持続可能なモデルの確立。

東広島まちなか共育プロジェクト

<これまでの活動概要>

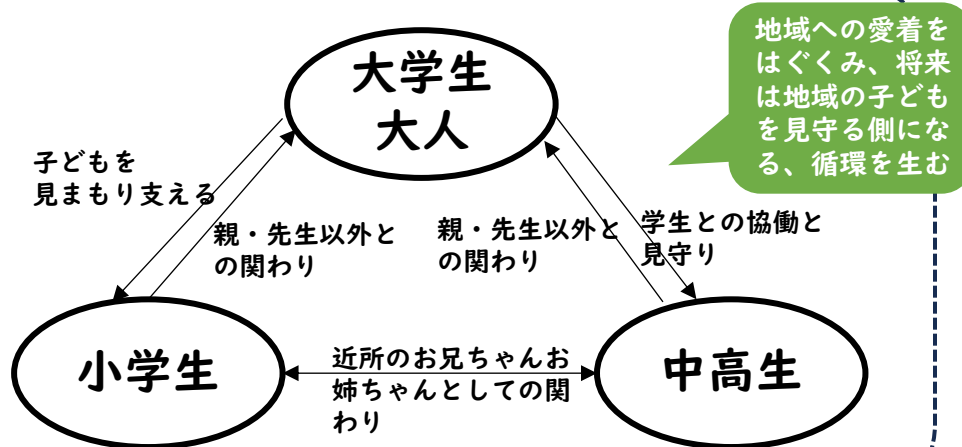
昨年より2か月に1回のペースで実施している「ダイドコロプロジェクト」では、みんなの台所をテーマに、炊き出し+遊びを行っている。当日はボランティアとして、学生～シニア層まで幅広い年代から毎回30名程が参加し、多世代が交流しながらまちなかの居場所を作っている。

<今後強化していきたいこと>

今後は、小学生・中高生・大学生・大人それぞれの層が、それぞれの立場で学びを得られる場づくりを強化していきたい。特に、ユースワーカーとしての中学生・高校生を育てていくことに、より力を入れていきたい。より多くの学生を巻き込み、人と学びの連鎖が起きる場を作りたい。



学校・家庭ではない第三の居場所になる



多世代と関わることによる地域社会での学び

<今回協力いただきたいこと>

- 子どもたちへの教育要素の取り入れ方について、学術的な観点から助言をいただきたい。
- 中高生のユースワーカー育成において、助言をいただきたい。